

# 鹿島の干潟を 災害から守る酒造り

## <鹿島市役所ラムサール条約推進室>

有明海（干潟）の環境や生物多様性を保全するため、鹿島市の自然環境の保全に努める組織

- ・近年、全国的に集中豪雨が相次いでおり、佐賀県特に豪雨による甚大な被害が多発している。
- ・干潟海岸の直接的な清掃だけでは、干潟の環境や生物多様性を保全は難しい。



豪雨後の干潟海岸の様子

有明海（海）を保全するためには海よりも上流から環境保全に取り組むことが必要！

具体的には？

➡稲作が行われる田んぼの維持！

## 酒蔵的な視点！

地元農家の高齢化等で米農業の後継者や従事者が激減している状況。このままでは地元産の原料米を確保できなくなる。

環境保全のために田んぼを維持していくことは、地元の米農業存続も同時に成し遂げることができるのでは？

将来の原料米の確保のためにも本プロジェクトに賛同した。

## <グリーンインフラ>

自然環境が有する多様な機能を積極的に活用して、地域の魅力・居住環境の向上や防災・減災等の多様な効果を得ようとするものとされている。

近年、グリーンインフラは持続可能な社会と経済の発展に寄与するものとして、その考え方が注目されている。

## <グリーンインフラの3つの要素>

- ①「防災・減災・国土強靱化」
- ②「地域振興・地方創生」
- ③「生態系・環境保全」

## <本プロジェクトの取り組み>

- ・ 棚田（上流）や下流の田んぼでお米を栽培  
⇒ **防災・減災**
- ・ 清酒に加工し、販売・流通させる  
⇒ **地域振興・地方創生**

この取り組みを拡充することで**鹿島の干潟の自然環境と生物多様性を保全**していく！

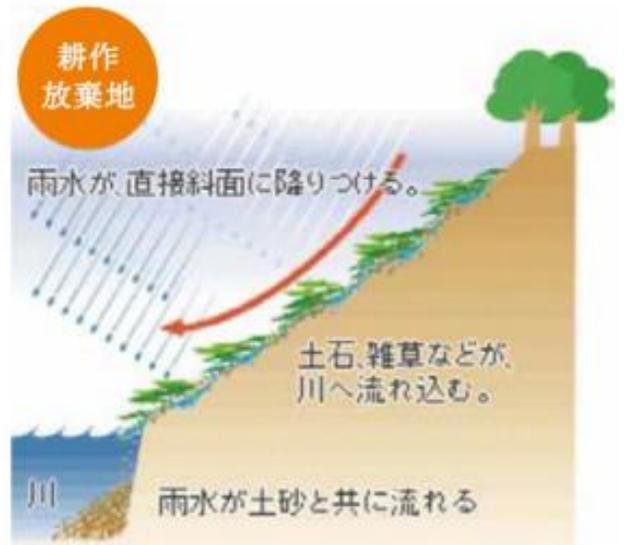
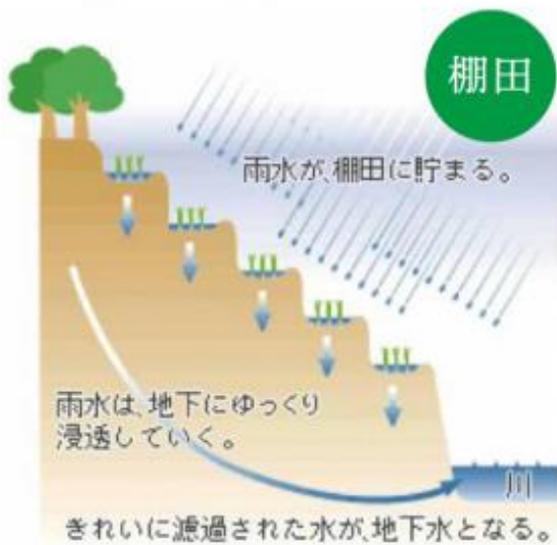
その他、

・ 原料米を清酒に加工することは、付加価値がつくビジネスの展開と若手の農業従事者の育成が期待でき、農家の人手不足の解消につながる。

・ 上流、下流ともに田んぼを整備していくことで住みやすい街づくりにもつながる。

## < 棚田の防災機能（中山間地） >

整備された棚田は雨水を貯水することで土砂災害のリスクを低減する。上流の棚田の整備は、早い段階で土砂をせき止めることにつながる。



## < 下流の田んぼの防災機能 >

上流の棚田だけの整備では防災機能は充分ではない。土砂災害や洪水災害を阻止するには下流の田んぼが砦となる！大雨時には自然ダムの機能を果たす



平時



大雨時

上流と下流の両方田んぼを整備・維持することが、減災・防災には必要不可欠。災害を阻止する関所を多地点で設けることが重要。また、田んぼの維持は水生生物の生物多様性保全にもつながる！

## <本プロジェクトの酒造り>

- ・馬場酒造場

⇒北鹿島地区の「さがびより」（下流の田んぼ）

- ・矢野酒造

⇒早ノ瀬、山浦地区の「夢しずく」（上流の棚田）

上記の田んぼで栽培された食用米で清酒を製造し、販売・流通することで、鹿島の干潟の自然環境および生物多様性の保全と防災・減災を図るとともに、地域振興を目指す！



竹の園～ごえん～(矢野酒造株式会社)

能古見～ごえん～(有限会社馬場酒造場)

本商品の売上金の一部は環境保全活動資金として寄付をさせていただきます。